

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択
担当教員			
尾場 友和			
金3、金4			
添付ファイル			

科目の概要	今日の社会は急激な変動過程にある。それに伴って、子どもの成育環境もたえず変貌を余儀なくされている。しかし、社会がどのように変わろうとも、子どもの発達の本質的な過程は変わらない。子どもは誕生とともにさまざまな社会に所属し、そうした社会が保有している文化、すなわち、ものの見方や考え方、また行動の仕方や規範、などの影響を受け、そうした文化を内面化することによって、その社会の一員へと形成される。このように、子どもの人間形成過程すなわち彼らの成長・発達の過程は、たえず社会とともにある。ここで学修する「子ども社会論」では、まずは自明と思われる「子ども」という概念がどのようなものなのかについて問い直し、子どもにかかわる社会的な課題や子ども社会における文化的特徴をとりあげ理解を深めていく。そうした学習を通じて、子どもの発達過程と社会に関わる基礎的知識の習得を目指す。
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション 本授業の目的と概要、および学習の進め方</p> <p>第2回 「子ども」はどこから来たのか 「子ども」概念の形成過程</p> <p>第3回 物語に見る子どもの姿 子どもの多面性・多様性の発見</p> <p>第4回 家庭の教育機能 家庭生活における子どもの成長</p> <p>第5回 親になる過程 子どもの社会化と親の自己社会化</p> <p>第6回 父親の育児 ジェンダー規範に抗うことの意味</p> <p>第7回 ひとり親家族と子どもの生活 家族形態に着目した子どもの発達環境</p> <p>第8回 子どもにとっての家庭外の世界 子どもによる学校観の国際比較</p> <p>第9回 子育て支援の社会的制度 ファミリーサポートに関する日本の環境</p> <p>第10回 地域の教育力とはなにか 地域社会における子どもの生活環境</p> <p>第11回 保育所における子どもの生活 教育機関等における子どもの発達環境</p> <p>第12回 子どもの仲間集団 人間関係のタテ・ナナメ・ヨコ</p> <p>第13回 子どもを対象としたメディアとジェンダー 子どもの生活におけるメディアの影響</p> <p>第14回 小学校へのトランジション 保育所と小学校の違いを考える</p> <p>第15回 まとめと振り返り これまでの学習を整理し、今後の目標を立てる</p> <p>定期試験</p>
学習到達目標	学習の到達目標は次の三つである。(1)子どもを捉えるうえで重要な役割を果たす「子ども観」について、これまでの歴史的な形成過程や現在の状況について、専門用語を用いて説明することができる。(2)子どもと社会との関係についての理解を深め、子どもを取り巻く今日的な課題や社会との関係性について事例をもとに説明できる。(3)子どもの文化的特徴を理解し、子ども社会を考察するための社会学的思考法を獲得する。
授業の方法	講義形式 第1回～3回目、及び8回目の講義ではディスカッション、グループワークにより、深い学びを行う予定している。
成績評価の方法	平常点（小レポート）30% 学期末試験70% で評価する
教科書・テキスト	随時、資料を配布する。
参考書	南本長穂・山田浩之『入門・子ども社会学』ミネルヴァ書房、2015年

授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	毎回講義開始時に、前回の授業の確認を行うので復習しておくこと。 毎回講義終了時に出す小レポート課題に取り組むので、日頃から子どもを取り巻く社会環境について情報収集すること。
履修上の留意事項	自筆ノートを整備し、授業後の復習を怠らないこと。
オフィスアワー	授業前後の日程調整により、その都度の日時を設定する
担当教員への連絡方法	必要に応じて、授業後に連絡方法を聞きにくること。あるいは、教務課に問い合わせること。
その他	特になし